１０人の心がひとつになれば

三浦　照男
アーシャ理事・インドプロジェクト総責任者

「１０人の心がひとつになれば、ものごとは変わります。」この言葉は、アーシャ・愛農会連携インドツアーの参加者・池野雅道氏が、自己紹介の際に彼の持論を披露された時の言葉です。インドの農村は何年たっても変わらない、と嘆きがちな私は、この言葉に「そのとおり」と反応してしまいました。

池野氏は２０代に愛農会創設者・小谷氏の信仰と農業哲学に触れ、愛農精神に基づいた有機農業運動に貢献することを決意。その後、当時先駆的な有機農産物を扱った流通センターの運営経営法を学びながら、有機農家と消費者との要となる株式会社・愛農流通センターを名古屋に設立したとのことです。65歳になられた現在、同センターの会長として、経営と運営に携わり、エネルギッシュに活躍されています。

農家として多忙極まる中、農業経営をしながら愛農流通センターの立ち上げ、経営を行ってきたこと自体、常人でないことは容易に想像できます。周囲からは変わり者として、やること成すこと全てに反対され、猛烈に批判もされたことでしょう。そのような困難を跳ね除けるだけの氏の精神力、情熱、能力に敬服し、更に彼を支えていた愛農会の三愛精神や仲間意識の高さに敬意を表さざるを得ません。現在、愛農精神で育てられた愛農学園農業高校卒業生がセンター後継者を担っているとのことです。私は何故、池野氏の言葉に「そのとおり」と心の中で喝采してしまったか、その後、考えてみました。

むら共同体、又は組織や団体の構成員すべての心が一つになることは不可能に近いことです。それが現実というものでしょう。しかし、一方で、その共同体の中で、情熱を持った１０人ほどの者が心を一つにして、労を惜しまなければ何かが必ず変わるというメッセージです。そのかすかな変化から、原動力と希望が生まれ、更なる発展が期待できるという強いメッセージなのです。このことを私たちはアラハバードでの活動においても、共有していたことだからこそ、池野氏の言葉に共鳴したのだと思います。

ベテラン職員や農村の長老格の方々から彼らの経験だけを基にしたアドバイスを受けていただけでは伝統原理主義的な北インドの農村改善は望めません。その中で、マキノスクールの職員１０名が変わり、かれらに関わった農村の若者が変わる。そしてかれらの家族が変わり、農村の共同体が変わる。長い道のりですが、確実にその方向へ進んでいると感じられます。そして農村で働く１０人が心を一つにして、チャレンジ精神と情熱を持って取り組めばきっと農村は変わっていくことでしょう。